

7 研修生のページ

研修半ばとなって

育成調教技術者養成研修 第26期生

今春入講したBTCの第26期育成調教技術者養成研修生の皆さんに、半年経過した現況について所感を書いていただきました。競馬界を支えるホースマンを目指して活躍を願っています。

「ハウ・レン・ソウ」の重要性

神原 一也

このBTCで研修を受けてもう半年。これまで多くの事を学び、経験してきました。それは、騎乗や厩舎作業だけでなく、知識を得るための学科もそうです。どんな行動でもその為に何が必要か分からないと何もできない。それを得る為、これまで多くの講義を教わってきました。

今回は、その中の1つ「ハウ・レン・ソウ」の重要性について振り返ってみます。

馬の仕事に限らず組織やチームで仕事をこなしていく、又は自分が社会人になる為に欠かせない、「報告・連絡・相談」。これらは、今の内に習得しなければならないものの1つです。

まず、「報告」では、普段の作業では教官から仕事の支持を受ける。それが終わらなければ必ず報告しなければならない。教官は黙っていますが、その報告を待っているの、それを怠らないように、他にも異常があればすぐに報告して指示を仰がなければならないし、それもポイントを明確に「結果 理由 経過」をはっきりと区別して解りやすく報告しなければならない。自分は、順序や言い方がまだまだ未熟なので、馬の怪我などの報告では学科で教わった知識を活かして、簡潔に言えるようにしていかないといけないと思っている所です。

次に、「連絡」では必要な情報を必要な人に伝達します。これは研修生同士で例えば、作

業が遅れそうな時、馬の治療や騎乗馬の状態など様々な情報を連絡し合う。これは、1つのことを自分1人だけではなく皆で認識出来る。それによって次の段階で他の誰がやっても同じ所から始められて、余計な手間を掛けなくて済む。これはチームワークで動く時にはとても重要になってきます。今では自分達も連絡を取り合い、作業の時間短縮と共に研修生同士の協調性も良くなったと思っています。

最後に「相談」で、これは指示された仕事を開始する時に不明なことがあった時は、迷わず相談する事。思い込みのままやると間違いの元になる。分からなければまず相談。教官や研修生同士でも親切に教えてくれ、それを自分の頭でしっかり確認してから実行する。そうやって得たものはしっかりと身に付く。そして、今度は自分が相談される立場の時に必ず生きる。そうなので、今もこれからも相談というコミュニケーションを大事にしていきたいと思っています。



この報告・連絡・相談は、実際やるにはタイミング・方法は難しい。でも、基本は自分以外の人への「配慮」。いつハウ・レン・ソウを行わないといけないか、相手への配慮を考えた時には、自然と出てくるようになってきました。これから半年後に向かう牧場という組織の中では、特にこの基本が出来ないと相手に迷惑を掛けてしまう。今の内からしっかり身に付け、実践していかないといけない。もちろん個人の努力は必要ですが、今自分の周りには頼れる教官や信頼出来る仲間がいる。少しずつでも社会に出る為の基本を学び、仕事を円滑に行える為にこれからあと半年しかありませんが、1日1日を大事に、そして半年後には、自分の進んだ所で即戦力となれるように精進していきます。

チームワークの大切さ

大下 宗真

厩舎で作業する時、研修生は1人1人が自分で考えて行動します。厩舎での仕事はたくさんあって力仕事もあるので、1人きりではスムーズにいかない時もあります。そんな時、自分たちで声を掛け合ったりして、複数人で仕事を効率よく終わらせます。時には誰かが仕事をしているのを見て、自主的に手伝ったりもします。このように、厩舎作業を効率良く終わらせるには、研修生同士の助け合いが欠かせません。



また、全員が寮で共同生活をしており、プ

ライベートでもお互いに助け合います。隣の部屋の人への気配りや寮内の清掃など研修生が自発的に意識する事で仲も深まっていく事になると思います。こういったことが研修生間のチームワークの向上、そして厩舎での仕事の効率化にも繋がっていきます。

そして、僕は厩舎作業において、仲間の研修生に刺激されています。馬房清掃などで他の研修生と同時に始めると、「早く終わらせるよう」と対抗心が湧いて早く終わらせる事ができたり、他の研修生よりも先に仕事を見つけてやろうと積極的に動けたりします。他の研修生が仲間としてだけでなくライバルとして、自分の研修において大きな糧となっているのです。

BTCでの研修も半年が経ち、仲間の助けもあって僕は成長する事ができました。研修で出会った大切な仲間たちへの感謝とチームワークの大切さを忘れずに、あと半年の研修を頑張りたいと思います。

まだまだ半人前

石鍋 哲也

BTCに来てはや半年が経ちました。BTCでの半年はとても過ぎるのが早く、一日を大事にしないともったいないです。BTCで今までやってきた事は、厩舎での作業、騎乗、手入れ、課外研修などなどたくさんやってきました。

厩舎での作業では、馬房清掃をする時、当初1つやるのにだいたい40分以上かかっていたのですが、今は20分くらいで終わらせることができる様になりました。騎乗についても最初は馬に乗ったことがなく、不安でしたが、今ではBTCの調教コースを使って訓練ができるようになり、厩舎と騎乗の技術は当初より大分進歩したと思います。それでも自分達はまだまだ全てにおいて未熟なので、これからも向上心をしっかりと持ち、職場で通用する技術を持てるよう努力していかなく

ればならないと感じています。

僕の夢は牧場でダービー馬をつくる、又は育てることです。今の僕では難しいことですが、1日1日を大事にし、どんなに小さな事にでも責任をもって取り込む事、一つの事にしっかり集中する事を怠らず、これから半年、今まで以上に努力し、夢に向かって頑張っていきたいです。



観察力

蛭名 恵士

私がBTCに入ってから一番学べた事は、馬を観察し、異常があった時には適切な行動に移す事です。

研修内容には、馬の健康状態について学ぶ学科があります。内容としては、主に疝痛、肢の異常、蹄の異常、馬体の異常、歩様などあります。BTCの学科システムとしてまず座学で学び、その後研修厩舎に行き、実際の馬を使って触って確かめながら学ぶ事ができます。

このような学科を学んでからは、馬の状態を毎日同じ時間に観察するようになりました。観察をしていると普段みられる癖や行動が馬ごとに異なりますが、馬の特徴がだんだん見えてくるようになり、馬の出すサインが少しずつわかるようになってきました。

そのほかに、実際に異常が起こった馬がいる時、例えば疝痛の症状がある馬がいる場合はその場だけの学科に変わり、実体験として

学ぶ事ができます。学んだ事はすぐ実践で使える物が多く、使う機会は多々あります。

一例をあげると、1ヶ月前に馬が放馬して怪我をしてしまいました。その時、学科で学んだ応急処置を使う機会があり、実際に獣医さんから怪我を負った馬の状態など学科では得られない物を学べました。

これから研修で私の目指す物は、一目見て馬の異常に気づける様になるまで観察力を磨き、身につけることです。最終的には、それを馬に関わる作業すべてにおいて発揮できるホースマンになりたいです。



若馬の馴致実習

土井 里美

3週間という期間の中で、私達は若馬の馴致訓練を習いました。JRAの1歳馬を借り、4頭の馬を馴致しました。4頭ともそれぞれ違ったタイプで、その馬に合わせた調教メニューを組む事、また、午前中に4頭を馴致するので、計画を立て、物覚えのいい馬はできるだけ短い時間で、手のかかる馬は長い時間をかけ、テンションを上げないように行っていくということ。しかし、やはり計画通りには行かないこともありました。思い通りにならないことが多々あり、馴致には技術が必要だと感じました。その中でも馬は日々成長していて、それを身近に感じる事ができました。特に嬉しかったのは、その馬に最初に乗れた事です。そして、思いました。自分が頑張っ

て馬にしてやるほど、馬はそれを返してくれると。それを学べただけでも、この馴致実習はとてもためになったと思います。これから私はBTCを卒業したらたくさんの若馬と触れ合うことになるでしょう。その時は、この実習でやってきた事を思い出し、活かして、そしていっぱい馬のために頑張っていきたいです。本当に貴重な体験ができ、心から良かったと思っています。



これまで騎乗できるようになっていることが信じられないのですが、毎回の騎乗で教官が的確にどこをどうしろと言ってくれたり、わからないことを聞いたりできることが一番大きな意義があると思っています。

また、毎日日誌を書くことで、今日の騎乗の良かった所、悪かった所を見つめ直して、明日への課題を持って望めることができます。今日より明日へもっと上手く乗れるようになり、しっかりとサラブレッドを育成できるように頑張りたいと思います。



進化する騎乗訓練

矢代 祐也

BTCでの研修も6ヶ月が経ちました。これまでに走路ではしっかりと馬をコントロールして一定のペースで走らせる訓練を単走や併走で行ってきました。また、BTC調教施設の様々なコースを使っての騎乗訓練は、同じコースなのに大きく感じたりと普段使っている走路とは違った経験ができ、とても充実した騎乗訓練ができています。

今は、騎乗訓練のレベルも上がってきていて、今までは教官が横について指示を出してくれていたのですが、最近はトランシーバーを付けて自分達だけで走路をしっかりと走行しています。2頭の馬を担当し、3日後に1ハロンを25秒のペースでしっかりと折り合った状態で併走することを目標とする訓練など、自分達で色々と考えて騎乗しなくてはいけないので、とても勉強になりました。

この6ヶ月間を振り返ってみて、自分がこ